

スクーバ・ダイバーの活動継続要因に関する研究  
 -ダイビングに関するアンケート調査より-

○千足耕一（十文字学園女子短期大学） 永嶋秀敏（国士舘大学体育研究所研究員）

はじめに

スクーバダイビングは1980年代から急速に普及し、現在のダイバー人口は約82万人と予測されている。そのような中で、ここ5年間では毎年8万人から9万人がエントリー（入門）レベルの講習を修了してCカードを取得し、ダイバーとしての登録を行っている。その一方では、活動を停止したりやめてしまう人々も存在することが報告されている。スポーツの継続という観点からの最近の研究では、山内ら（1996）のパラグライダー参加者の活動継続要因に関する研究<sup>1)</sup>、國本ら（1996）のトライアスロン参加者のイベント評価と参加継続意欲についての研究<sup>2)</sup>、植松ら（1996）のスポーツキャリアとスポーツ継続に関する研究<sup>3)</sup>、久保ら（1996）の一流高校生競技者の集団競技種目継続に関する研究<sup>3)</sup>、田中、佐藤ら（1996）のスポーツ教室の継続と離脱に関する研究<sup>6) 4)</sup>、山内ら（1997）の高齢者におけるグランドベテランソフトテニスの活動継続要因に関する研究<sup>9)</sup>などがある。これらの研究では活動継続・非継続を従属変数としてとらえ、それぞれの研究において性別・年齢などの属性、活動開始年齢、イベントの評価得点、活動に影響を及ぼす要因、活動のイメージ、参加動機、過去のスポーツ歴、継続要因、サービスへの期待、サービスの評価、ベネフィット、活動阻害要因などを独立変数として設定し分析を行っている。これら以前の研究からもスポーツの継続・非継続、あるいは参加・非参加への意思決定には様々な個人的要因や環境的要因が関わっていることが指摘されている。個人の属性、重要な他者の存在、動機と満足、コスト、サービスやプログラムに対する評価、参加（継続）阻害要因などである。スクーバ・ダイバーの活動継続に関しては千足（1995）<sup>7)</sup>の研究があり、Cカード取得者を対象にその後の活動継続状況を尋ねるとともに基礎的要因（性別・年齢など）、主体的要因（現在のダイビングを行うための条件、重要な他者、身体的要因、生活意識など）、ダイビングに対する態度・効果意識・重要な他者の期待に対する信念などの項目を設定し、活動継続との関連性について考察している。

本研究はスクーバ・ダイビングのCカード取得者に対して行われたダイビングに関するアンケート調査から活動継続に関連する要因についての考察を行うものである。

研究方法

本研究では過去3年間にスクーバ・ダイビングの指導団体5団体傘下の指導者に指導を受けCカードを取得した者に対して郵送法によるアンケート調査を行った。まず、対象者（サンプル）の全体的傾向を把握した。次にダイバーの活動の継続状態を大きく継続と非継続に分け、そのなかで継続者を4タイプ、非継続者を2タイプに分けた。それぞれのアンケート項目についてグループ間の比較を行った。

## 結果と考察

アンケートは1061部が配布され有効回答数として256通（回収率24.1%）を分析の対象とした。本研究の対象者の属性は表1に示したとおりであった。

表1 対象者の属性

属性	n=256 (%)	属性	n=256 (%)	属性	n=256 (%)
1.性別		4.職業		5.年収	
男性	112 (43.8%)	事務職	52 (20.3%)	100万円未満	39 (15.2%)
女性	143 (55.9%)	労務職	7 (2.7%)	100万円以上	15 (5.9%)
無回答	1 (0.4%)	販売・サービス職	30 (11.7%)	200万円以上	39 (15.2%)
		専門・技術職	59 (23.0%)	300万円以上	52 (20.3%)
2.年齢		管理職	10 (3.9%)	400万円以上	33 (12.9%)
10代	9 (3.5%)	自営業	11 (4.3%)	500万円以上	30 (11.7%)
20代	136 (53.1%)	農・林・漁業	0 (0.0%)	700万円以上	24 (9.4%)
30代	57 (22.3%)	自由業	2 (0.8%)	1000万円以上	15 (5.9%)
40代	34 (13.3%)	学生	10 (15.6%)	無回答	9 (3.5%)
50代	16 (6.3%)	パート・アルバイト	9 (3.5%)		
60代	2 (0.8%)	専業主婦	6 (2.3%)	6.休日形態	
無回答	2 (0.8%)	無職	5 (2.0%)	週休2日	125 (48.8%)
		その他	25 (9.8%)	隔週休2日	33 (12.9%)
3.婚姻状況				週休1.5日	4 (1.6%)
既婚	71 (27.7%)			週休1日	14 (5.5%)
未婚	184 (71.9%)			不定期	20 (7.8%)
無回答	1 (0.4%)			学校の休み	30 (11.7%)
				自由に休める	15 (5.9%)
				その他	9 (3.5%)
				無回答	6 (2.3%)

ダイビングの活動継続タイプは継続型として、長期継続型：「Cカード取得後から引き続きずっと実施している」、中途継続型：「Cカード取得後しばらく実施せず、途中から開始して現在も継続している」、中断継続型：「Cカード取得後から引き続き実施していたが途中で中断した。しかし再開して現在も実施している」、断続的継続型：「Cカード

取得後、時折思い出したように行う」、非継続型として中途非継続型：「Cカード取得後から引き続き実施していたが中断してしまい、それ以降は実施していない」、長期非継続型：「Cカード取得後、全く実施していない」の6タイプを設定し回答を求めたところ表2のようになった。継続型が69.5%、非継続型が29.3%という結果となった。この結果は千足が行った研究結果（継続型が64.4%、非継続型が35.6%）と比較して継続型が多く、非継続型が少ないという結果であった。回収率の違いも関連していると考えられるが、ダイバーの意識としては継続していると考えているものが約6～7割と考えて良いであろう。但し、実際に行動として現れているかどうかは推察の域をでないため、今後アンケートを行う際にはより具体的な行動についての質問を行うようにする必要があろう。

表2 ダイビング活動継続のタイプ（1995年と今回の調査の比較）

区分	タイプ	1995年の研究	今回の研究
継続	長期継続	45 (28.1%)	107 (41.8%)
	中途継続	7 (4.4%)	14 (5.5%)
	中断継続	9 (5.6%)	8 (3.1%)
	断続的継続	42 (26.3%)	49 (19.1%)
	継続型小計	103 (64.4%)	178 (69.5%)
非継続	中途非継続	34 (21.3%)	31 (12.1%)
	長期非継続	23 (14.4%)	44 (17.2%)
	非継続型小計	57 (35.6%)	75 (29.3%)
	無回答	0(0.0%)	3 (1.2%)

ダイビングを行う目的では、「楽しみのため（68.3%）」、「興味・関心のため（36.3%）」、「気晴らしやストレス解消のため（28.9%）」といった項目が高い回答率であった。これは、千足ら（1995）<sup>9)</sup>がおこなったダイバーの動機に関する研究において、「好奇心を満たす」「新しいものを発見する」「ストレスや緊張をやわらげる」といった項目が高い回答率を示したことと一致する。

「ダイビングを通じて何をしたいと思ったか」という質問項目に対するCカード取得前と取得後の意識の変化では、取得前が「海の中をのぞいてみたい（64.8%）」、「水中の自然観察（32.8%）」、「海洋生物と親しむ（29.3%）」といった項目が高い回答率を示したのに対し、Cカード取得後では「海洋生物と親しむ（37.9%）」、「ダイビング技術を身につける（37.5%）」、「水中の自然観察（32.5%）」、「水中写真またはビデオ（27.8%）」の順で高い回答率を示した。Cカード取得後に技術を身につけることや水中での映像に意識が移っていることが特徴といえる。

ダイビングプランの決定要因という項目においては、「水中の生物がよい」、「費用が安くて済む」、「周辺のガイド、サービスがよい」といった項目が高い数値を示し、これらがダイバーの行動に関連しているものと考えられた。

発表当日には補足資料を用いてより詳細な報告を行う

## 参考文献

- 1) 植松秀也ら（1996）スポーツ・キャリアからみる参加継続の可能性，日本体育学会第47回大会号，p154.
- 2) 國本明德ら（1996）トライアスロン参加者のイベント評価に関する研究－類型化別に見たイベント評価および参加継続意欲について－，日本体育学会第47回大会号，p151.
- 3) 久保和之ら（1996）青少年のスポーツ活動継続要因－集団競技種目の一流高校生について－，日本体育学会第47回大会号，p167.
- 4) 佐藤ら（1996）スポーツプログラム参加者のサービスとベネフィットの評価，日本体育学会第47回大会号，p186.
- 5) 社団法人・海中開発技術協会（1998）平成9年度ダイビング産業の実態に関する動向調査報告書.
- 6) 田中俊夫ら（1996）スポーツプログラム参加者の継続と離脱に関わる要因について，日本体育学会第47回大会号，p187.
- 7) 千足耕一（1995）スポーツ活動の継続性に関する研究－スクーバ・ダイビングの場合－，筑波大学体育センター大学体育研究第17号：p1-12.
- 8) 千足耕一ら（1995）スポーツ・ダイバーの動機とフロー経験に関する研究，筑波大学運動学研究第11巻：p97-105.
- 9) 山内照代ら（1997）高齢者のスポーツ活動継続要因－グランドベテランソフトテニス大会出場者について－，日本体育学会第48回大会号，p165.
- 10) 山内照代ら（1996）パラグライダー参加者の活動継続要因に関する研究，日本体育学会第47回大会号，p152.

※本研究は社団法人海中開発技術協会（現在のレジャー・スポーツダイビング産業協会）が日本小型自動車振興会からオートレース収益金の一部である機械工業振興資金の補助を受けて行った「ダイビング産業の実態に関する動向調査」のデータを使用し行ったものです。